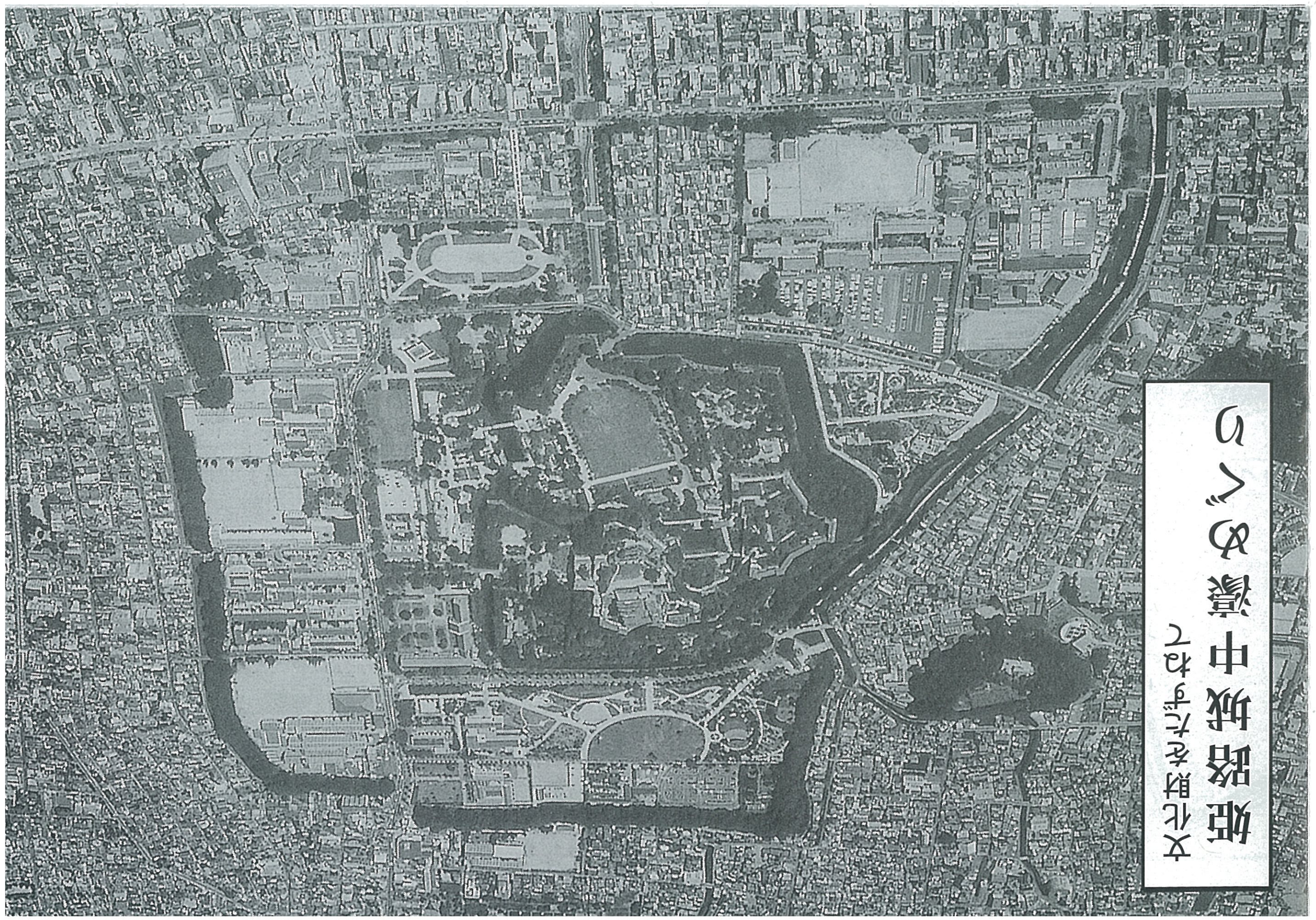
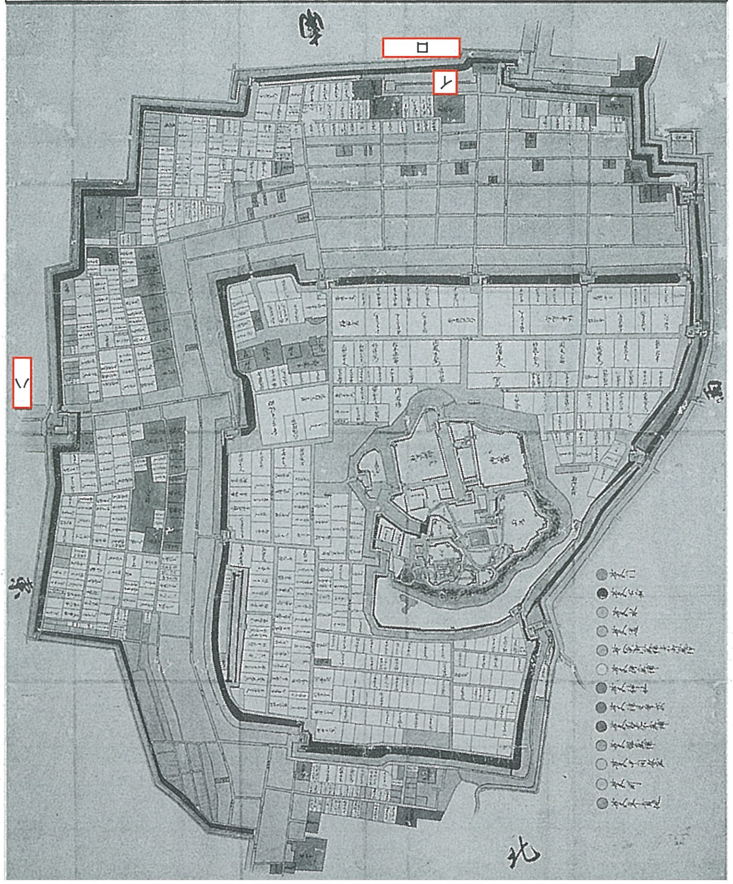
文化財をたずねて
姫路城中濠めぐり



姫路城周辺ガイド

- このコースは中濠を一周するコースで、その全行程約4.7kmあります。
- 途中一方通行や遊歩道があるので、徒歩でないと全行程は、まわれません。
- コースの近くの文化財も地図に入れてあります。適宜足をのばして見学してください。
- 中ノ門は姫路駅より北550m、徒歩10分
- 姫路市立美術館
  入館料／常設展　一般 200円　大高 150円　中小 100円
- 兵庫県立歴史博物館
  入館料／　一般 200円　大高 150円　中小 100円
  ※県内在住の小・中学生は無料
- 姫路城（年中無休）
  登閣料／　大人 600円　小人 200円
  見学所要時間　1時間30分
  登閣口は、南と東の2か所にあります。
- 姫路文学館
  入館料／　大人 300円　大高 200円　中小 100円

昭和59年3月31日（姫路市教育委員会・姫路市文化財保護協会 発行）
平成11年10月再版
平成18年5月改訂
平成23年2月再版



姫路侍屋敷図（図書館蔵）
酒井氏時代　文化13年（1816）以前
イ 山陽電車姫路駅　ロ JR姫路駅　ハ 京口駅

世界文化遺産姫路城

姫路城の現在の遺構は、慶長五年（一六〇〇）関ヶ原合戦の戦功により三河吉田一五万石から播磨五二万石の大名になった池田輝政が慶長六年から同一四年にかけて主要部を構築しました。その構造は、姫山（標高約四六m）を中心として三重の水濠を巡らせ、内濠以内の内曲輪、中濠以内の曲輪、外濠以内の外曲輪からなる総構方式の平山城で、内曲輪には城主の居住空間や蔵、天守など、中曲輪には武家屋敷、外曲輪には武家屋敷、町人町、寺社などが配置されていました。

中濠に沿って歩いてみると、かつては一一か所に門が設けられ防御を固めていたことを知ることができます。

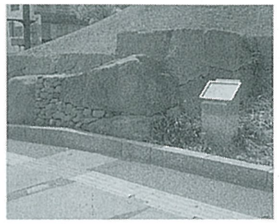
姫路城は平成五年一二月一一日に世界文化遺産に登録されました。

中ノ門

姫路城の中曲輪の南辺（正面）には、西から埋門・鶴門・中ノ門・総社門・鳥居先門の五つの城門がありました。中ノ門はこの中央に位置し、外曲輪の飾磨門から内曲輪の大手門（桜門）に通じる大手筋に開き、最も重要な門でした。本来門の前面にあった中濠は、明治四五年以降に現在の国道二号を建設するため埋め立てられました。近年移転した民家の中から昭和七年の埋め立て時の記念碑が発見され、中ノ門付近の歩道上に移設されました。

総社門

総社西門筋にあったのでこの名称になりました。現在、市民会館の西側などに石垣の一部が残っています。平成七年度に姫路市教育委員会によって発掘調査が行われ、土塁の下から石垣が検出されました。石垣の背後には栗石が幅約一m近く充填されており、その状況が現地に復元して展示されています。



土塁の下から発見された石垣

播磨国総社

播磨国一宮の伊和神社（宍粟市）と共に精神的な基幹であり、近世には姫路城の鎮守として歴代城主から崇敬されてきました。社殿等は戦災で焼失しましたが、現在は整備されています。参道の石造鳥居（県指定）は慶安五年（一六五二）に姫路城主榊原忠次が寄進したものです。二一年ごとの三ツ山祭、六一年ごとに行われる一ツ山祭（ともに県指定）は、境内に大きな「山」を作って祭る珍しい神事です。

播磨国総社

内京口門

播磨国総社の東には本来土塁と濠がありましたが、現在は町並みと通りになっています。通りを北に行くと内京口門に至ります。門の東西で土塁と濠が鍵の手に屈曲しています。ここから東に四〇〇m進むと外曲輪の外京口門があり、ともに京都方面に通じる道に設けられているためこの名前がついています。

内京口門付近の中濠

寺町

姫路城下町では、外京口門の控えの位置にあたる五軒邸、坂田町、平野町に各地の寺が集められ寺町が形成されました。寺町の十数ヶ寺のうち法華宗が最も多く、このことからも城主池田氏の厚い信仰を窺うことができます。正明寺には貞和二年（一三四六）造立の板碑（県指定）があります。

寺　町

ノコギリ型町並み

福居町から米屋町まで続く通りでは、道路に面した家屋の敷地がコーナー部を路中に出しながら並んでいます。道路の両側がノコギリ歯のようにジグザグになっていることから地元では「ノコギリ横丁」と呼ばれています。

ノコギリ型町並み（福居町付近）

北勢隠門と清水門

市立美術館の西側には中濠と内濠に挟まれた勢隠曲輪が細長く延び、その北西隅に北勢隠門が位置します。すぐ北に清水門があり、現在は道路によって分断されていますが、元々は石垣で繋がっていました。したがって、城内側からは北勢隠門を出て清水門を抜けると城外に出ることができました。

鷺の清水

清水門の桝形の東南には覆い屋を持つ大型の石組井戸があったことが、昭和六三年の姫路市教育委員会の発掘調査で明らかになりました。この井戸は宝暦一二年（一七六二）の地誌『播磨鑑』にある「鷺の清水」と推定されます。鷺の清水は、播磨十水の一つに数えられる名水として知られ、『播磨鑑』には城主本多政朝（在位一六三一～三八）が京都の名水「柳の水」と「鷺の清水」を飲み比べる話が載っています。

鷺の清水（背後は清水門）

車門

船場川沿いに設けられた城門で、北の桝形に車道門があったためこの名称がつきました。中曲輪の西辺は中濠の外側に平行して船場川が流れており、川を外濠として利用していました。中濠と船場川の間の土手は、高瀬舟を引く人の歩いた道で現在は遊歩道になっています。

埋門

中曲輪の南西隅に位置し、土橋で外曲輪と中曲輪を南北に結んでいましたので、直接城外には通じる門ではありません。国道2号に沿って石垣が遺存しています。

鶴門

中曲輪南辺の西方に位置し、本町と坂元町を結んでいました。

文化財をたずねて

姫路城中濠めぐり

0 100 200 300 400 500m

県立姫路紡績所跡
明治13年創業
今は家並になっている

侍屋敷

誓光寺子安地蔵
貞治2年の石稲仏

外濠の終点、いま町並になっている

野里小

外濠跡碑

但馬道

米屋町

ノコギリ型町並み

男山

貯水池公園

八幡神社
姫路城主寄進の鳥居が2つある

不動院
東山焼の窯があった

日本城郭研究センター
城内図書館

野里門

清水門

北勢隠門

シロトピア記念公園

天満神社
千姫が崇拝した

姫路文学館

案内板

鷺の清水

県立歴史博物館

姫路東消防署

濠はせばめられて道になっている

ノコギリ型町並み

生野町

竹田町

福居町

侍屋敷

船場川改修記念碑

千姫の小径

景福寺山

姫路城主 松平明矩の墓

侍屋敷

侍屋敷

姫路神社

寸翁神社

市立美術館
もと陸軍兵器庫
建物は明治38年(1905)に建設

県立 姫路東高

外濠跡碑

竹ノ門

いま門跡はみえない

馬車道

明治九年に完成、生野から飾磨までの道

播但線

外濠

城東小

登閣口

姫路城

道標

景福寺
姫路城主 酒井家の妻の墓

見星寺
寛延2年の大水でなくなった人の供養塔がある

市ノ橋門

好古園(西御屋敷跡)
この辺りに好古堂が移され、明治の初めまでつづいた

動物園

姫路医療センター

久長門

淳心高・中

妙立寺

正明寺

妙善寺

円光寺

寺町

石仏

本領寺

法華寺

妙国寺

大法寺

賢明高・中

内京口門

東光中

外京口門

説明板

旧山陽道

農人町

船だまり
高瀬舟が船場川を上下した

姫路聴覚特別支援学校

龍野町
秀吉が城主の時、税を免除するなどして商人を集めた
姫路で最も古い町

旧山陽道

車門

説明板

西国街道碑

無料休けい場
おみやげ売店

東御屋敷跡
城主酒井氏が住んでいた所

説明板

護国神社
藩の役所があった所

大手門

家老屋敷跡公園

白鷺小

白鷺中

この辺り一帯は家老など藩の重役の家があった

大手前公園

(地下)

地下入口

地下出口

藩校・好古堂の旧位置

郵便局

播磨国総社
句碑、歌碑も多い

埋門

鵤門

説明板

大手前通り

姫路市観光案内所
姫路市観光なびポート

中ノ門

終点

起点

中濠埋立の碑

派出所

NTT

総社門

血の池跡碑

鳥居先門

石鳥居

市民会館

NHK

御切手会所の碑
藩札を発行していた所
すぐ東は木綿など専売する役所があった

姫路駅へ

旧山陽道

妙行寺
石仏など石造美術品が多い

善導寺
建武元年(1334)の笠塔婆
木造薬師如来は市重文

侍屋敷

不明門ともいう
祭のとき以外はあけなかった門の前には太鼓橋があった

中央保健所

商工会議所

正法寺
大きな家形石棺の蓋
池田輝政の供養塔
廻国塔

外濠

馬車道

京口駅

船場本徳寺
城主本多忠政の時できた東本願寺派の寺

西南の役の碑
姫路藩勤王志士の碑
北平野廃寺塔心礎

備前門(福中門)

外濠

大蔵前公園
勤王志士終焉の地の碑

この道は濠を埋めてつくったもの

室津道

N